

令和6年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	千代田区立九段幼稚園
所在地	千代田区三番町16

1. 活動のテーマ

<テーマ>

動

<テーマの設定理由>

本園では、様々な素材と触れ合ったり、廃材等でイメージした物を作ったりし、作ったものを遊びの中に取り入れて遊ぶ姿がよく見られる。さらに、作った物を動かすことへの関心を広げ、試行錯誤しながら動かすための仕組みについて考えたり、試したり、また動力となる様々なものとの出会いを楽しんだりする機会をつくりたいと考え、テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

令和6年9月～令和7年3月まで

9月2回 11月3回 12月2回 1月2回 2月2回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・様々な自然物（枝、木の実、葉など） ・紙粘土 ・カラーセロファン
- ・ペットボトル 紙皿・和紙・画用紙等の様々な紙、 角形クレパス・油性マジック
- ・透明の容器、水槽（深さがあるもの）
- ・太陽の光が当たる場 水を扱える場など

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

- 「影が動く」
- ・カラーセロファンで作った道具を使って影をつくる
- ・つくった影を動かしたり、定点に置いたりして、色の様子や動きの変化を楽しむ
- 「まほうのかみ」
- ・紙が水に塗れるとどうなるか、水に浮かべるためにはどうするかなど試す
- ・クレヨンで着色した時の隙間の有無で浮き沈みに変化があるか試す

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

「影が動く」

カラーセロファンを通して影が出来ることに気付く。紙とカラーセロファンでの影の違いに気付く。カラーセロファンの重ね具合で色が変わるか試す。「黄色は色が消えちゃう」「(重ねすぎて) 真っ黒になった」など変化を楽しむ。食後、午前と同じ場に場を設定することで影の出る場所が変わったことに気付く、不思議がって繰り返し影を映して楽しむ。

「まほうの紙」

- ・画用紙をちぎって水に浮かべたり手で揉んだりすると、紙がふにゃふにゃになることやまた、色が滲み出る様子に気付く、繰り返し試す。
- ・試した水槽を見えるところに設定すると、水の色の変化や、水かさが減ったりしていることに気付く。「(紙が) 水を飲んじゃったね」と表現する。
- ・新聞紙、広告紙、京花紙、和紙など、様々な種類の違う紙を用意する。沈む早さの違いに気付いたり、紙の大きさによる動きの違いに気付いたりする。広告紙に水が浸透する様子を見て、「水が入っていく」とつぶやく。
- ・和紙の半分をクレヨンで着色すると、水にクレヨンの色が出てくると予想する。
- ・着色した方はずっと浮いていることに気付く、「クレヨンで塗った方が強い」と言う。
- ・隙間なくクレヨンで塗ると紙が重くなり沈むのではないかと予想して試す。裏面も塗ると更に重くなると考え、それぞれの楽しみ方で繰り返し試し楽しむ。

<活動の様子>



5. 振り返り

- ・時間をかけて幼児の気付きを促す活動であったが、一日だけではなく、何日か継続して関われるよう場を設定することで、時間とともに変化する様子に関心を示し、前回の経験から予測しながら関わる様子が見られた。幼児の関心を持ちやすいよう、廊下、階段下など幼児の動線途中で関わる場に置かれていたことの効果があった。
- ・保育者が幼児に言葉を掛け過ぎることで、気付きや感じたことを表す機会を奪わないようにすることと、気付きを引き出す援助のバランスが難しい。